

2021年度 「ともの家」事業報告

はじめに

今年度もコロナ感染に神経を割きつつ、通常の生活を維持することに力を注いできました。閉塞的な生活に慣れてきたとはいえ、沸々とした感は仲間全体にあり、些細なきっかけで爆発してしまいそうでした。大きな爆発を防ぐために、ほんの小さな変化も見逃さないように、私たち職員は神経を研ぎ澄ましてきました。保護者の協力体制も整っていることが「ともの家」の強みであり、仲間たちも保護者も職員も、慌ただしくも1日1日を大切に健康に過ごせたことが何よりだったと総括します。

1. 職員のレベル向上

仲間との関わりに神経を研ぎ澄ますためには、仲間をとことん知り、感じる感性と職員のチームワークが大切であり、個々のレベルアップが必要です。

12月に開催した研修報告会では11名の職員が各々興味のある事柄について報告しました。内容が多岐にわたっていたことは、視野を広く持つことに一定の効果があり、また興味のないことに関しての基礎知識を得ることが出来ました。障害のある仲間たちと関わるからこそ、自身の感性を磨くことに貪欲になることが必要だと常に感じています。

2. 地域発信

外部のイベントはすべて中止、お店開催のマルシェも中止にしました。

地域生活支援事業への協力は、出来る範囲で行いました。船越地区の「ひだまりはうす」や入江地区の「こどもっち」へのパンやおやつを提供。そこに集まる子供たちの中で、最も困りごとの多い家庭への援助活動にも参加しました。

出来ることは非常に小さいのですが、埋もれている社会の問題に興味を持つことが第一歩であり、そこに協力できたことは非常に有難いことだと思っています。

映画会の開催は、予定通り行いました。

3. 防災対策

コロナ感染を言い訳にはできませんが、避難行動であえて密を作ることは避けなければならないため、最小限の訓練に留まっています。非常食だけの昼食や水なし歯磨き、防災に関する環境整備等を行いました。

4. 仲間の将来に向けて

人材不足に悩まされた1年でした。特にホームの泊りが不足しています。日中活動職員が手伝いに入ることは可能ですが、日中の手が足りなくなることは避けなければならない苦難な状況は依然として続いています。そのため、将来に向けてなどという見通しを持つことは出来ず、今困ったことに手を差し伸べ体制を整えることだけで精一杯でした。

しかし、親の高齢化も仲間たちも高齢化もストップできません。特に障害ゆえの2次、3次障害は、親の想像を超えた困りごとを引き起こしており、私たちも戸惑っています。そして、今後さらに多

くなることが予想されます。将来「どこで誰と暮らすか」本人主体が理想とは言え、親の考え方が基本です。子どもの将来を考える時が来ていることを伝えていきながら、ともの家として出来ることと出来ないことの見極めをしていきます。

事業拡大として位置付けていた「計画相談事業所」の開設については、現時点では断念しました。設置が制度の中で義務化されてはいますが、本人の困りごとや希望に応じ、素早く対応する体制が出来ておらず、結局身近にいる私たちの後追いをして体裁だけ整える（サービス等利用計画）形になっています。3か月に1度のモニタリングも電話で済ませるなど、多忙とは言え、制度の趣旨には程遠い現状に疑問を感じています。それでも、人材不足が解消されていれば、2名の職員が資格を取得したので、開設に踏み切りたいところではありました。

5. 事業全般

仲間が中心になるような大きなイベントや行事が出来ませんでした。春には「少人数の日帰り旅行」夏から秋に向けて、感謝のつどいに使用する動画撮影のために、部署を超えて、清水の名所めぐりを行いました。完成した動画は、自然体で「彼らはここで地に足をつけて着実に生きている」ことを語っていました。ありのままを受け入れることは容易ではありません。それは、ありのままを出せる場所や人に出会い、仲間自身がその術を身につけなくては成立しないからです。

生活介護 個別対応の仲間が増えたことが大きな特徴です。また、作業を柱にしている仲間と、健康維持を柱にしている仲間、その中間と、多岐にわたる活動や作業では、多くの職員とその能力が試された1年になりました。

就労継続 B コロナ禍でも、お店のお客様は途絶えることがなく、商品がコンスタントに売れましたので、作業が欠くことはなく、忙しい日々を過ごしていました。働くことが好きかと聞かれれば、首を傾げる仲間もいると思いますが、働くことでしか得られないものがあることは、ともに作業している日々で実感しています。

グループホーム

生活の場面は、支援者側の生活の価値観が多く出てしまい、統一した支援がとても難しいため、仲間が職員に合わせてくれる場面が多くあります。仲間たちに迷惑を掛けないことを大前提に、本人主体の生活と家庭的な雰囲気の中で、ほっとできる居心地の良い場所になってきたと感じています。

6. ヒヤリハット及び事故報告

ヒヤリハット	13件
事故	2件
苦情	なし